

楊貴妃桜



楊貴妃（ヨウキヒ）は、江戸時代初期から名前を知られている名木です。サトザクラの仲間で、花色は淡紅色、八重咲きで花弁の先端に細かい切れ込みが入るのが特徴です。花が密につくので、木がピンクの花に覆われ、たいへん美しいです。豊満な八重桜の姿から、中国の楊貴妃を連想して名付けられました。

- ・落葉樹
- ・開花期：4月中旬
- ・最終樹高：5m以上
- ・用途：地植え、鉢植えともに栽培可能

■栽培方法

【環境】

日当たりと水はけの良い、腐植質に富む肥沃な土壌を好みます。日陰になる場所は避けます。強い西日や強風の当たる場所も嫌います。

【植え付け・植え替え】

落葉後の11月～12月下旬、2月下旬～3月中旬が適期です。寒い地方では、春植えが適しています。

●地植えの場合

保水性と排水性のバランスが良く、肥沃な土を好みます。植え穴を大きめに掘り、あらかじめ腐葉土と緩効性化成肥料や堆肥を元肥として混ぜ合わせておきます。苗木のうちは、支柱を立てておくとう安心です。

●鉢植えの場合

赤玉土（小粒）4：腐葉土3：黒土3の割合で混ぜあわせた用土がおすすめです。緩効性化成肥料や堆肥を元肥として加えます。生育が悪くなったり、立ち枯れを起こしやすくなるので、植え替えは2～3年に1回は行います。1～2回り大きな鉢に植え替え、根についた土は3分の1ほど落とし、長く伸びた根は切り詰めます。

【水やり】

●地植えの場合

基本的に水やりは不要ですが、夏に乾燥が続くときは、水を与えます。

●鉢植えの場合

土の表面が乾いたら水を与えます。夏場は1日1回、朝のうちに水やりします。

【肥料】

2月頃に寒肥として株の周囲に数カ所、穴を掘って有機質肥料と緩効性化成肥料を混ぜたものを施します。花後のお礼肥として緩効性化成肥料を少量、また7月頃に追肥をすると花付きが良くなります。

【病害虫】

病気は、こうやく病、てんぐ巢病などがあります。てんぐ巢病は、ソメイヨシノをはじめ、エドヒガン系のサクラに発症しやすいです。害虫では、モンクロシャチホコ、コスカシバの幼虫、カイガラムシなど

苗木の販売

配送方法：第四種郵便

※落葉樹のため、秋～冬の期間は葉を落とした状態でのお届けとなります。

お届け時の高さ：10cm以上～15cm未満

訳アリ商品

★フォロワー様には定期的にクーポンを
送付させていただきます。
是非、フォロワー登録をお願い致します。

※画像はサンプルとなります。

・当店出荷サイズ基準以下

・ひこばえが成長している

・天候不順等により成長が遅い

等、当店の出荷基準を満たしていない物を
フォロワー様にお安く提供させていただきます。

クーポンを利用されない方(フォロワー様以外 等)は、
左の通常商品をお買い求め下さい。